

# 中田かわら版 9 月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田地区経営委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所

制作：中田かわら版制作編集委員会

横浜市踊場地域ケアプラザ

## 【第 1 回 中田中央公園記念杯・泉区中学校野球交流大会】

# 初代栄冠は中田中野球部

中田連合自治会文化部部长 南川麻衣子

泉区内の四中学校（中和田中、中田中、汲沢中、領家中）野球部対抗の交流試合「第 1 回 中田中央公園記念杯・泉区中学校野球交流会」が 8 月 5 日・7 日の 2 日にわたって開催されました。この大会は、両翼 87m・センター 97m を誇る中田中央公園野球場で、地元中学校の野球部員に伸び伸びとプレーさせてあげたいとの好意から企画され、中田連合自治会（上原敏博会長）ほかの協力を受け実施したものです。

中田中央公園は 30 年近く前、中田小、東中田小及び中田中の現・元 P T A 会長や泉区青少年指導員協議会会長で組織された「横浜における中田を考える会」の子ども達に対する、スポーツを通して「思いやり」「競争心」「忍耐力」「感動」「あこがれ」など健全な心を育成してほしいとの熱い思いが実を結び、整備されるに至った公園です。本交流大会は、この 30 年越しの願いが形となった記念すべき大会となりました。



8 月 5 日は快晴、最高気温 36 度の猛暑日であったものの、心地よい風が吹く中、球児たちは活き活きとしたプレーを見せてくれました。8 月 7 日は曇りのち晴れ、最高気温 35 度、時折強風が吹いたものの心配された雨や雷もなく、順調な試合運びとなりました。

2 日間で計 4 試合が行われ、初代優勝校は中田中学校、準優勝校は汲沢中学校。優勝カップと賞状が手渡され、四校すべてに参加賞として野球ボール 1 ダースが贈られました。熱中症や大きなケガなどなく、無事に大会を終えられたことも何よりでした。



昨今は教職員の働き方改革が進められ、このこと自体は重要な取り組みであるものの、部活動運営が難しい時代となっています。しかしながら、子ども達が部活動を通して得るものは大きく、子どもたちの成長にとって重要な役割を担っていることも事実です。

本大会開催に向けてご協力いただいた先生方に感謝するとともに、今後も、学校だけではなく地域ぐるみで子どもたちの成長を見守り、時には手を差し伸べられる町づくりができればとの思いを抱いた 2 日間となりました。

＜中田中学校野球部 山梨監督談＞練習をよくやっていた。その成果が決勝戦に出ていた。勝因はバッテリーが要所、要所をしっかりと押さえていたのと、各人が自分の役割を果たして得点に繋がっていたことだと思う。よくやった！褒めてやりたいです。

（宮田 貞夫）

## ■郷土史家・小島貞雄氏の功績<8>最終回

# 思えば“奇跡”の連続だった

宮田 貞夫

連載が始まったのは「かわら版」(202号)、2024年4月からだった。小島家当主、佐利（さとし）氏から自宅のリフォームと同時に休館中の「民俗資料館」も解体したいと通知を受けたのが2月ごろだった。まず感じたのは、これで中田から貴重な歴史的資料が消えていく寂しさと、その損失のことだった。すぐさま「泉区歴史の会」会長の石井茂氏に報告。「歴史の会」のメンバーで小島氏とは長年編集仲間  
の郷土歴史で著名な有馬純律（すみのり）、小澤明夫（中田東）氏らとともに佐利氏とお会いすることに  
した。その結果は「資料館の右室の農機具類と隣室の茶の間にある日用品、本や雑誌などすべて開示、  
必要なものは提供してもよい」と言う話だった。

小島氏は「民俗資料館」の開設で分かるようにその土地の歴史を大切にする人だった。また活動分野  
も広範囲にわたっている。作詩、俳句、写真、イラスト、日用品の収集（玩具、遊具、絵画）、作図な  
ど。中にはすぐれた作品も多く、多くは分散されて紹介。これを一つに纏めたい、と思ったのが今回連  
載の目的だった。小島氏の周辺は、まさに歴史の「宝庫」のようだった。

小島氏の庭先にゴザを敷き開示された日は延べ6回。4月20日、同26日、11月4日、12月26日。  
明けて令和7年、1月20日、2月6日。主な立会人は「歴史の会」から石井茂会長と有馬純律、小澤明  
夫、宮田貞夫。「かわら版」編集長の松本正、松本純子、河内満明、小島敏子。他に飯島猛旦、井上昌  
司の諸氏。以下貴重な資料（書籍・会報・写真など）を報告してみる。

- 1) 東原遺跡から出土した石皿。『いずみ いまむかし』（125頁）に写真で掲載された実物が行方不明  
だったが、今回発見された。
- 2) 昭和43年発行「中和田郷土誌」5冊、「泉区郷土かるた」20個、「長後街道絵巻」約20冊（ただ  
し表紙がボロボロ、なかも虫食い）。「中和田郷土誌」では小島氏は編集委員長を務め、赤字で書き  
込みがあり超貴重品。
- 3) 小島氏が所属していた俳句同人誌「冬草」が数冊発見、小島火山の雅号で活躍していたのが分かっ  
た。原稿用紙2枚の肉筆原稿も見つかる。
- 4) 昭和21年当時、中田の小島氏ら青年団員が発行した会報（ガリ版刷り）4冊が渡辺信幸氏（中村）  
から寄贈を受ける。超貴重品。
- 5) 江戸時代の郷土力士・戸田川のイラストが紙くずの中から偶然発見。運よく連載<5>に乗せること  
ができた。今年是小島氏の生誕100年に当たる。郷土の誇り小島氏の偉業を偲ぶとともに佐利氏を  
始め、多くの協力者に心から感謝を申しあげたい。南無。

### 編集後記

日本では酷暑や線状降水帯やらで大変だと思っていたら諸外国でも大変らしい。洪水や山火  
事、果ては大規模な火山噴火もある。こんな折りに諸外国に対して関税戦争を仕掛けている大統領がいる。一方  
的に領土拡大戦争をしている大統領も。もう対岸の火事では済まされなくなってきた。折しも広島、長崎に原爆  
のニュースを見て更に恐ろしくなった。

昨日と同じように朝ご飯が頂ける時にホットするのは齡のせいばかりではないかも知れない。

松本 正

◎発行：中田地区経営委員会「かわら版」制作編集委員会

委員長 宮田貞夫 編集長 松本 正

編集委員；小島敏子、田中 進、河内満明、松本純子、鈴木賀津彦、嶋 宏之